

御堂筋を人間のためにぎわいとゆとりの舞台へ

～ 御堂筋にぎわい空間づくり ～

NPO法人 長堀21世紀計画の会 なりまつ 成松 孝

1. 地域づくり方針・目的

「御堂筋にぎわい空間づくり（御堂筋オープンフェスタ）」は、「御堂筋」を活用したイベントを通じて、地域活性化の面的な広がりを持続的なまちづくり組織の形成を目的とするものである。

平成14年の都市再生緊急整備地域の指定、及び地域のまちづくり活動の気運が高まるなか、平成15・16年に社会実験として、本年度は本格実施として開催されることとなった。



にぎわう御堂筋

2. 取り組み内容

新橋交差点南側から難波交差点北側（約800m）を車両通行禁止にし、幅員約44mの御堂筋を自由に散策できる空間を提供した。イベント内容は、区間を4つのエリアに分け、周辺の街の特性に合わせたイベントを地元が主体となって企画・運営した。また、開催前の6日間にわたりボランティアや地元関係者など約170名が参加し、約9,000枚のエフを取り付け、放置自転車に対する啓発活動も行っている。



挨拶する北側国土交通大臣

3. 苦労点・達成度等

幹線道路を通行止めにして行うため、交通規制・警備が最も重要な課題である。運営においては、警察、道路管理者、地元等との協働が必要不可欠であるが、大きなトラブルもなくイベントを実施できたことは大きな成果であった。

4. 効果・反響等

来街者が約24万人と過去2年を上回り、御堂筋だけでなく周辺も賑わったことから、御堂筋を活用したイベントが周辺地域の賑わいの創出に大きく寄与することが伺える。また、来街者の多くも御堂筋を歩けることに対する評価が高かった。



路上でのパフォーマンス

5. 今後の課題等

定例的なイベントとして、地域の活性化・まちづくり活動の促進を図っていくためには、民と官、民と民、官と官とがよりよい関係を構築しつつ、互いが協力して御堂筋をさらに魅力ある空間とし、にぎわいの創出につなげていくことが重要である。

御堂筋を人間のためのにぎわいとゆとりの舞台へ ～ 御堂筋にぎわい空間づくり ～

NPO法人 長堀21紀計画の会
成松 孝

これまでの経緯 ～社会実験から本格実施へ～

●オープンテラス

御堂筋の側道の一部を歩行者に開放し、オープンテラス化。

- 第1回 2000年11月 開催
- 第2回 2001年10月 開催
- 第3回 2002年10月 開催



●御堂筋オープンフェスタ

御堂筋の本線、側道の一部を歩行者に開放し、イベント空間に。



- 第1回 2003年11月23日 開催
- 第2回 2004年10月17日 開催
- 第3回 2005年11月13日 開催
(本格実施)



御堂筋オープンフェスタ2005

● 取り組み内容

- ・ 実施日
2005年11月13日
- ・ 場所
御堂筋の長堀通～千日前通
(約800m)



アートパフォーマンスエリア



▲ 大道芸を楽しむ来街者

▼ ヒューズ・マシュー氏によるアートペインティング



スポーツ&大阪レトロエリア



▲プロバスケットボールチームの選手と楽しむ子供達

▼迫力ある和太鼓☆



JAZZエリア

▼プロジャズバンドの演奏♪



▲学生ジャズバンドの演奏♪



ダンスエリア



▲シニア社交ダンス♪

▼メチャハッピー踊り♪



苦労点・達成度

道路(公共空間)でのイベントの制約

- 安全性の確保
 - ・交通規制、警備
- 資金源
 - ・民間による資金集めの制約



来場者に喜んでもらえるイベントの企画、運営



効果・反響



来街者でにぎわった御堂筋

今後の課題

- 運営資金の確保
- イベント時間、開催日の増加
- イベント内容の充実